

序

今回発掘調査した東紀寺遺跡のある地域は、奈良市街地の東南部、春日山西麓に接する住宅密集地にあり、しかも、平城京域外であるため、それほど調査の進んでいる地域ではない。また、明治42年に開設された歩兵奈良連隊営舎・練兵場の建設などにより、条理遺構を示す地物なども失われたと考えられている。そのため、付近には頭塔のように著名な遺跡もあるが、従来あまり注目されることもなく、不明な点の多い地域であった。

このたび、奈良女子大学附属中学校の屋内運動場新営工事にともない、1500㎡という、この地域ではかなりまとまった面積の発掘調査を実施する運びとなった。調査地内は、予想以上に後世の削平が著しく、調査の結果発見された遺構・遺物などの量は、決して多いものではない。しかし、周辺では数少ない、古墳や奈良～平安時代の遺構を検出し、貴重な成果が得られた。

調査の成果は本書に詳述してあるとおりで、古墳時代中期における、地域勢力の分布について、新たな知見を加えることができた。また、古代平城京域外の様相を知る上で、新たな手掛かりが得られたものとする。最後に、奈良女子大学をはじめとする関係機関の御協力、御援助に感謝する次第である。

1994年3月25日

奈良女子大学附属中学校・高等学校構内遺跡調査会長
町 田 章